

サシ居タリ、

〔三省錄^二飲食〕治世亂世の武士の事、[○]中亂世の武士の義は、治世の武士とは大に違ひ、[○]中その身軍陣に立候ては、鹽のかきたて汁をす、り、黒米をそのま、飯にたきたるばかりを、給べならひ候を以て、世上無異安穩なるときの朝食とても、料理數奇食このみ仕る義もこれなく、[○]中我等わかきころは、武家の下々には、杵のあたりたると申如くなる下白のもつそう飯に、糠味噌汁をそへて給させ申如く有之候は、右申戰場に出て、黒米飯を鹽じるにて給べ候、仕くせ故の義なり、[○]下

〔清正記^三〕清正家中江被申出七ヶ條

大身小身によらず侍共可覺悟條々

一平生傍輩つき合、客一人亭主一人之外咄申間敷候、食は黒飯たるべし、但武藝執行之時は、多人數可出合事、

〔武野燭談^{十四}〕井伊掃部頭直孝入部仕置之事

家光公日光御參詣道中とよ、井伊少將は、別に椀飯を持せずして、黒米飯を其儘にして食し、供奉せられける、[○]下

飴飯

〔類聚名義抄^八食〕飴^{俗音}糰^{チウ}又女久反、カシキカテ、
〔類聚名義抄^七米〕粗^正カシキカテ、
〔倭名類聚抄^{十六}飯〕飴飯、唐韻云、飴^{女救反、字亦作漿}、雜飯也、

〔箋注倭名類聚抄^四飯〕玄應音義云、糰古文飴粗二形同、[○]中按加天是雜糰之義、萬葉集醬酢爾汁

都岐加天々是也、今俗猶有加天々久和不留之語、又今俗猶呼飴飯爲加天飯、又訓糧爲加天者、加

利天之省、加利天者、乾飯料之急呼、與此不同、[○]中按說文、飴雜飯也、孫氏蓋依之、